

学校教育目標		持てる力を最大限に発揮し、主体的にかつ個性豊かに社会へ自立していく児童生徒の育成		重点目標	「生活する力」を身に付けていく児童生徒の育成 －「考える」「伝える」「生活に生かす」力を育む授業づくり－				
評価計画				自己評価		学校関係者評価		改善計画	
重点目標	目標達成のための方策（取組指標）	成果指標	評価	結果（成果○と課題△）		評価	コメント	次年度における改善策（案）	
重点目標に関する評価	授業改善の日常化	・ 個別の指導計画に基づく指導の充実	・ 「何を学ぶか」を明確にした全児童生徒の個別の指導計画の作成と実施・評価・改善に基づく教育課程の展開（教育課程評価80%）	4	○ 児童生徒の実態を把握して、個別の指導計画を毎学期作成し、加筆修正等行いながら活用し、目標達成に向けて実施・評価・改善を行うことができた。		A	・ 自己評価は適切である。 ・ 個別の指導計画については、学期毎に加筆修正され、児童生徒を大切にされた指導等が行われている。今後も継続していただきたい。	・ 教務手帳への貼り付けや、学期途中での加筆修正など、活用方法を工夫していく。
		・ 活動や操作を通して主体的に考えることができる授業づくり	・ 分かりやすいめあての提示とまとめ、会話や対話、生活と関係つけた場面の設定（教育課程評価80%）	4	○ 会話や対話、必然性のあるめあての提示、考えさせる場面について、全体的に意識が高まってきている。		A	・ 自己評価は適切である。 ・ 子どもに考えさせることを大事にされており、自立へ向けた具体的な取組がなされている。	・ 「めあて」については、100%提示できているが、整合性のある「まとめ」についても検討していく。
		・ 学習のねらいが明確で「分かった、できた」を実感させる授業づくり	・ 「何ができるようになるか」を重点とした学習指導の充実（教育課程評価80%）	4	○ 学んだことを活用したり、自分の思いや考えを発表したりする場面を設定し、できたことを提示することを通して、子どもと成果を共有することができた。		A	・ 自己評価は適切である。 ・ できることの積み重ねと振り返りが確実にされており、子ども一人一人の実態を見極めた指導が大変素晴らしいと思う。	・ 子ども一人一人の「1年でできるようになったこと」を洗い出し、全職員で共有するとともに、次の目標達成に向けてスムーズステップで取り組む。
	交流及び共同学習の推進	・ 「思いやり・いたわり・優しさ」を育てる学習の充実	・ 学校間交流・居住地校交流・地域交流・市民交流などの交流及び共同学習の積極的な設定と、ESDで重視する能力や態度の育成（教育課程評価80%）	3	○ 2学期後半より、感染対策を徹底し、学校間交流を再開することができた。子どもたちも大喜びであった。		A	・ 自己評価は適切である。 ・ コロナ禍の中、さまざまな工夫がなされている。小学校の子どもたちも大喜びであったことを聞くと大変意義あるものであると考える。	・ 次年度もコロナ禍が継続すると思われるので、Zoom等を活用した学校間交流も検討し、今年度以上の実施を目指す。
		・ 地域のひと・もの・ことを生かした学習の充実	・ 地域の消防士や市役所職員等のゲストティーチャーの招聘と連携・協働（教育課程評価80%）	3	○ 消防士を招聘した防災学習、市役所職員を招聘した環境学習等について行うことができた。昨年度以上に実施することができた。		A	・ 自己評価は適切である。 ・ 体験したり、人と出会ったりすることは、子どもたちにとって深い学びにつながっており、素晴らしいと思う。	・ 地域のひと・もの・ことの発掘を継続する。また、職員の情報スキルを向上させ、Zoom等を活用を進め、学習の機会と質を確保できるようにする。
		・ つながりを大切にした計画的、組織的な学校間交流、居住地校交流の充実	・ 学校間による綿密な事前打合せや学習会の実施と次の交流につながる事後指導（メッセージや作品交流等）（教育課程評価80%）	3	○ 小、中学部の学校間交流について、綿密な打ち合わせを行うとともに、グループ割・内容等に配慮しながら再開することができた。		A	・ 自己評価は適切である。 ・ 計画において、互いの実態についての情報交換等も大切にしながら進められているため、充実した交流ができています。	・ 交流の事前学習として、本校職員による「障害を有する方々との接し方」等の出前授業を実施し、よりスムーズで充実した学校間交流を目指す。
	専門性とセンター的機能の向上	・ 障害の状態、特性に応じた指導の工夫	・ 教材教具交流会や、近隣の大学からの講師を招聘した事例研修会、体の動き研修会、校内特別支援教育研修会を通じた理論研究と実践（教育課程評価80%）	4	○ 講師招聘研修会、体の動き研修会、校内特別支援教育研修会について予定通り全て実施することができた。打合せを重ね内容も充実した。		A	・ 自己評価は適切である。 ・ 先生方の学が意欲が子どもたちの笑顔につながっていると思う。 ・ 理論研究の成果をHP等で公開してはどうか。	・ 研修に関する教職員アンケートを毎学期実施し、職員も踏まえながら研修内容を検討していく。
		・ 外部専門家の活用	・ 作業療法士や理学療法士等の専門家を招聘した研修会やリハビリ見学を通じた連携（教育課程評価80%）	3	△ 研修会は実施できたが、リハビリ見学はコロナ感染拡大の時期と重なり、実施できないことが多かった。		A	・ 自己評価は適切である。 ・ コロナ禍で、思うようにできないことがあったと思うが、できる範囲で充実させようと努力されていることが伺える。	・ 新型コロナウイルス感染状況により、研修時期を変更したり、Zoom等を活用するなどして、今年度以上に研修の機会を確保する。
		・ 教育・就学相談と幼稚園・保育園、小中学校への情報提供	・ 定期的な「特別支援教育だより」「あゆみ」の発行と、支援部スタッフを中心とした教育相談や巡回相談の実施（教育課程評価80%）	2	△ 支援部が中心となり、ほぼ毎日相談活動を行っているが、量や内容に比べ自己評価が低い。本校が市内に提供しているセンター的機能について、再度周知したい。		B	・ 自己評価は上方修正すべきである。 ・ 自己評価の数値は低いが、市内特別支援教育センター一校としての実績を鑑みると、一段階から二段階上方修正してよいと思われる。	・ 「特別支援教育だより」について、校内では廊下に掲示するにとどまっていたので、全職員に配布し、センター的機能についての周知を徹底する。
	いじめの早期発見と早期対応	・ 支持的風土のある学級経営の充実	・ 好ましい人間関係の醸成や規範意識の育成を図る教育相談の日常的な実施（教育課程評価80%）	3	○ 教育相談については、チャンス相談を中心に行うことができた。また、スクールカウンセラーが配置され、教育相談が充実し、職員研修も実施できた。		A	・ 自己評価は適切である。 ・ スクールカウンセラーが配置され、教育相談体制が充実した。カウンセラーによる研修会も行われているため、内容が充実している。	・ スクールカウンセラーと連携し、カウンセラー便りを年4回発行し、教育相談等の情報提供を行い、教育相談の質と機会を確保する。
・ いじめの早期対応、早期対応の充実		・ 校内支援委員会・日常観察・アンケート・教育相談・情報収集を通じた情報の収集と、保護者との連携（教育課程評価80%）	4	○ コロナ禍のため、対面での懇談についてはできないこともあったが、電話やリモート（Zoom）等の代替手段で工夫して行うことができた。		A	・ 自己評価は適切である。 ・ 保護者懇談会についてもICTを活用するなど、コロナ禍でありながらも実施に向けた熱意と工夫が感じられる。	・ 生活アンケートを毎月実施し、連絡帳等からの情報収集と併せて、いじめを生まない、許さない風土づくりに努める。	
不登校防止	・ 家庭・関係機関等との連携協力	・ 基本的な生活習慣の育成	・ 連絡帳や通信などを通じた、家庭との情報共有や連携（教育課程評価80%）	4	○ 家庭（保護者）の協力・理解が不可欠であり、生徒指導に関して気になることは、時機を逃さず、早めの指導が今後も必要である。		A	・ 自己評価は適切である。 ・ 家庭との連携が丁寧に行われているため、子どもと保護者の安心感にもつながっていると思う。	・ 各学級から出された学級通信を全て共有フォルダに保存して学級や学部を越えて閲覧できるようにし、各種通信の質の向上を目指す。
	・ 個別的教育支援計画等を活用した連携協力	・ 懇談会、情報交換会等を通じた家庭・関係機関等と児童生徒の教育的ニーズや支援方法の共通理解（教育課程評価80%）	4	○ 個別的教育支援計画に基づき、家庭や関係機関等と共通理解を図り、連携しながら指導支援を行った。		A	・ 自己評価は適切である。 ・ 個別的教育支援計画作成の意義について周知を徹底し、家庭や関係機関との連携がよくなっている。	・ 合理的配慮の観点に基づいた支援ができていないか、定期的な確認と見直しを通して、より効果的で質の高い支援を目指す。	
働き方改革	・ 教職員の働き方改革	・ 水曜日を定時退校日とする。 ・ 勤務日は20時まで退校する。 ・ 長期休業に6日の閉庁日を設定する。	・ 月に3回以上実施 ・ 1日80%以上の職員が実施 ・ 完全実施	3	○ 水曜日の定時退校日、長期休業中の学校閉庁日の設定については、100%実施できた。勤務日における20時までの退校については、ほぼ実施できているが、より効率的な業務処理について学部会、運営委員会等で検討していきたい。		A	・ 自己評価は適切である。 ・ 児童生徒のために、先生方も心身共に健康でいていただきたい。効率的な働き方と児童生徒への教育効果という両面から取り組まれていると感じた。	・ 効率的な業務処理に向けて、課題や、分担の現状を学部会等で確認するとともに、原因を洗い出し、設定時刻までに退校する職員の1割増を目指す。

◇ 評価について  
 ・ 【自己評価】 4：目標達成（90%以上） 3：ほぼ達成（70%～90%） 2：もう少し（60%～70%） 1：できていない（60%未満）  
 ・ 【学校関係者評価】 A：自己評価は適切である B：自己評価は上方修正すべきである C：自己評価は下方修正すべきである